

日 時：令和元年9月17日（火）午前10時～12時

テーマ：「学修成果評価システムの構築」について

会 場：短期大学部棟 108 教室

参加者：専任14人、非常勤17人

1. 学科長挨拶

まず、本学科の教育活動へのご理解とご協力に対しお礼を申し上げ、次に、本日の会議に先立ち、現在、短大では学修成果の可視化に取り組んでおり、各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を学生が身につけて卒業できるように、今回「学修評価シート」をリニューアルし、学修成果評価システムを確立したのでご理解いただくとともに、授業評価アンケートの結果も振り返り、共通認識を持って、カリキュラムや授業改善等に取り組んでいきたいと挨拶した。

2. 各部より報告

入試広報部の百海より、今年度のオープンキャンパス参加者数について報告があった。

3. 説明及びグループ討議

まず、教務部の村上より、「学修成果評価システムの構築」と題して、PDCAサイクルのシステム化のイメージや、導入予定の学修評価シートについて、3ポリシーとの関連や評価の計算方法などの仕組みについての説明があった。それにより、学位プログラムレベル(学科)・科目レベル(授業)で、多面的に学修成果を評価することを全体で確認した。

次に、短大全体の各科目の前期成績評価を確認するとかなり散らばりがあるため、成績評価の平準化を目指して、全科目において目安となる GPA 平均値の範囲が適正であるかを確認し、今後も検討していくことで一致した。

続いて、米川の司会により、「今現在の学生の姿をとらえ、ディプロマ・ポリシーをめざして改善案を考える」という題でグループ討議を行なった。最初に学生の良い点、続いて悪い点について各自で書き出してグループ内で共有し、最後にその対策をグループごとに話し合い、その結果を発表することにより、ディプロマ・ポリシーを達成するための授業改善について全体で共有した。例えば、学生を肯定的に見る、学生に達成感を感じさせると言った教員の指導姿勢に関すること、教員間の情報共有、スマートフォンを活用、ポイント制の導入など、具体的な方策にいたるまで幅広い案が出た。

